めでたく満１００歳

佐藤 フミさん（油井）

この世に生を受けて一世紀。２月16日に佐藤フミさん（油井）がめでたく満100歳を迎えられ、二本松市からは賀寿、福島県からは賀寿と木杯が贈られました。佐藤さんの長寿の秘訣は、「心配をしないこと。周りの方々に感謝すること。」だそうです。佐藤さんのますますのご長寿をお祈りいたします。

二本松酒まつり2019

県内外、世界に誇る二本松の銘酒を堪能

二本松市内の４蔵元の銘酒を堪能する「二本松酒まつり」が２月16日、ウェディングパレスかねすいで開催されました。当日は純米大吟醸酒など約40銘柄が並んだほか、「ふくしま農家の夢ワイン」のワインも提供され、市内外から訪れた約300人の来場者が、奥の松酒造、大七酒造、人気酒造、檜物屋酒造店の多様な酒を飲み比べながら堪能していました。

会場はたくさんの来場者で埋め尽くされた

ざぶん賞2018（第17回）で全国表彰

高濟 寧々さん（二本松北小）が特別賞受賞

生命の源である水をテーマにした創作文を通じて、命や自然の大切さを考える「ざぶん賞」で、全国表彰の「特別賞・うみまる福島賞」に輝いた二本松北小の高濟寧々（たかすみねね）さんが、２月20日に市役所を訪れ受賞を報告しました。高濟さんは毎年家族で沖縄へ旅行し、海に潜って感じたことを作文にしました。今回の受賞作となった「沖縄の海」では、沖縄の美しいサンゴを毎年見て感動している一方で、地球温暖化で問題になっているサンゴの白化現象に触れ、豊かな海を守るために、私たち一人一人ができることをしていきたいという思いをつづりました。

受賞報告をした高濟さん（中央）

平成30年度「読書賞」表彰式

読書を通して視野が広がる喜びを実感

読書を通して自分自身を見つめ、自分の生き方を考えようとする心豊かな児童を称えて表彰する「読書賞」表彰式が２月22日、市役所で行われました。表彰式では丹野教育長が、市内16小学校の６年生から一人ずつ選ばれた受賞者に賞状を手渡し、「本を読む楽しさを周りに広めてほしい」と呼び掛けました。その後３人の児童が読書活動を通しての感想を発表し、知らなかった世界を知った驚きや、いろいろな考え方に接してこれからの生活についての視野が広がった喜びなどを披露しました。

三保市長(右)にプロでの活躍を誓う鴫原さん(中央)。写真左は丹野教育長

鴫原さんがトヨタ車体クインシーズへ加入

二本松市出身のVリーガーが誕生

２月22日、バレーボール女子Vリーグ１部のトヨタ車体クインシーズに加入することが決まった市内中ノ目出身の鴫原ひなたさんが市役所を訪れ、三保市長へ入団報告をしました。鴫原さんは二本松一中時代、福島県選抜選手として全国大会へ出場し、その後、宮城県のバレーボール強豪校である古川学園へ進学。在学中は主将として活躍し、昨年のアジアジュニア選手権(U-19)日本代表にも選出され優勝に貢献しました。鴫原さんは身長176㎝のアウトサイドヒッター。目標とする選手は内瀬戸真実選手(トヨタ車体クインシーズ所属)で、鴫原さんが中学生のときに、プロとしては小柄ながら頑張っている内瀬戸選手をテレビで見て憧れたそうです。その内瀬戸選手と同じチームに加入することになった鴫原さんは、「プロは仲間でもありライバル。少しずつ成長してチームに貢献したい」と抱負を述べました。

写真左から、あだたら高原スキー学校校長の根本勲さん、大内さん、三保市長

「スノーボードフリースタイル競技」南東北３県で１位

独学で培ってきた努力が実る

１月末に開催された全日本スノーボード技術選手権大会南東北３県合同予選会において、大内正則さん(沖)がフリースタイル男子の部で第１位に輝き、全国大会への出場権を獲得。その報告と激励金交付式が２月25日、市役所で行われました。大内さんは39歳で、生業の傍ら独学でスノーボードの技術を習得してきた努力家。公式戦での１位は今回が初めてでした。全国大会は２月28日から新潟県の上越国際スキー場で開催され、出場選手157人中27位で予選を通過し、決勝競技では30位の成績でした。

市内初の観光イチゴ園「マルナカファーム」オープン

甘～い『イチゴ』に大満足

３月３日、市内油井地区に設置された観光イチゴ園「マルナカファーム」がオープンしました。二本松市内に観光イチゴ園ができたのは今回が初めてで、オープン当日は、市内外からたくさんのお客さまが詰めかけ、受付場所は長蛇の列となりました。提供されているイチゴは、「とちおとめ」「Cあわせベリー」「紅ほっぺ」「桃薫」の４種類。４棟のビニールハウス内には、真っ赤に熟したイチゴがたわわに実り、来園者を心待ちにしているようでした。マルナカファームは土日・祝日のみ営業しています。

【文部科学大臣賞】

今を大切に

二本松市立二本松第三中学校
三年　松井　菜々美

第８回「命の大切さを学ぶ教室全国作文コンクール」の中学生の部で、国務大臣・国家公安委員会委員長賞に次ぐ文部科学大臣賞に輝いた二本松三中３年（平成31年２月時点）の松井菜々美さんが２月18日、市役所を訪れ受賞を報告しました。受賞した作文の全文を紹介します。

賞状を手にする松井さん
（H31年2月18日、市役所にて撮影）

私達は、今を大切に生きているだろうか。明日は必ず訪れると何の疑いもなく信じてはいないだろうか。「命」と聞いて何を思い浮かべるだろう。

私が思っていた命についての最初のイメージは、「私になくてはならないもの」ということだ。命がなくなれば当然死んでしまう。命は限りあるものだ。大切なもの、そう思ってはいたが、危険がすぐ側に潜んでいるとは思わず、そのためか深く考えることもなかった。

そんな私が、命に対しての考えが変わったのは、学校で行われた「命の大切さを学ぶ授業」を受講したことがきっかけだ。それは、飲酒運転のトラックによるひき逃げで、当時十九歳だった息子さんを亡くされた方の講演だった。私は、涙を浮かべ、声を詰まらせながら話をしている姿から、突然家族を犯罪によって失うことのつらさを感じ、いつの間にか涙があふれ出していた。朝、笑顔で家を出て行った家族が、もう二度とかえって来ないなんて考えられるだろうか。私だったら考えられないし、信じたくない。この事故で亡くなった方も、いつも通り出て行ったそうだ。まさか死ぬなんて考えもしなかったはずだ。この時私は、今朝のことを振り返ってみた。ちゃんと家族の顔を見て会話をしていただろうかと。もしかしたら、私も犯罪に巻き込まれ、命を落としていたかもしれないのだ。そう思ったら、突然怖くなり、体が固くなるのが分かった。この事故で遺族は、まわりから色が消え、心は空になり、動く気力もなくなってしまったそうだ。また、いまだに納骨をせず、亡くなった後も彼の食事を作り続けているという。長い年月が経っても、残された家族の心の傷は消えない。そう思った。同時に、いつ何が起こるのか分からないという恐怖を感じた。

そこで、後悔しないためにも徹底してやろうと思うことがある。それは、毎日を大切に生きていき、感謝することだ。私は、当たり前になりすぎて感謝する心を忘れ、何気なく一日が過ぎていっている気がする。今後は、感謝の言葉を口にし、一日一日を大切にしたい。

「命の大切さを学ぶ授業」を通して、命は「私になくてはならないもの」から「みんなの思いが詰まった大切なもの」と考えるようになった。一人ひとりの命には、支えてくれる多くの人の思いが込められている。だから、そういった人達を悲しませる悲惨な犯罪が無くなってほしいと心から思う。命に対しての考えが変わり、今までより、深く考えることができたこの講演に感謝している。

何気ない毎日の中にある幸せ。その幸せを守るためにも、命を大切にしていこうと思う。私は、生きているのだから。この命を、今を、大切に生きていきたい。

《全て原文どおり》

ロープウェイで残雪の残る安達太良山へ《あだたら山ロープウェイ》

◆営業期間
平成31年４月20日㈯～毎日運行
4月6・7・13・14日特別運行致します
◆営業時間
８時30分～16時30分
（上り最終15：50／下り最終16：20）
◆料　金
片道　大人1,000円・小人　750円
往復　大人1,700円・小人1,300円

二本松市奥岳温泉
あだたら高原リゾート
TEL 0243-24-2141
http://www.adatara-resort.com

＼絶景の露天風呂／

《あだたら山奥岳の湯》
●4月20日～11月4日は10時～20時まで営業
※その他の期間は18時終了　※メンテナンスによる休業日あり
●料　　金　大人 600円　小人 400円